

うた 歌う ガチョウ？

「ガア—————！！

うた 歌を 歌うって、なんてむずかしいのかしら。

ひる 夜にも さえずって みた。

ある 歩きながら、走りながらも、さえずって みたのに。

わたしの のどは、一体 どうしちゃったのかしら？

ガーガー 言うだけで、全く 歌に ならないわ。」

ガチョウの グージーは がっかり。

あと 後は もう、ねるばかり。

うた 歌っても 歌っても、

やさしい 調べには ならない。

けど、いつか きっと、鳴き鳥のように

うつく 美しい 声で さえずって 見せるわ。」

(ネコ以上の 何かに なりたいなあ) と思いながら、

グージーは ねむりに ついた。すると、こんな 夢を見た。

ある 子ネコが、勇ましく ほえたける

ライオンのように なれると 思っていた。

それが あまりにも こっけいで おかしかったので、

お母さんネコが 言った。「まあまあ。

農場主は ネコの あなたが お望みよ。

あるがままの あなたが 好きなの。

やわらかくて 人なつこくて、もふもふの あなたがね。

大きな けものじゃ なくて、かわいらしい ペットよ！」

子ネコは 言った。「そうなの。じゃあ、ニャーって 言うね。

牛みたいに、モーなんて 言わないから。

犬みたいに ワンワン ほえないよ。

カエルみたいに はねたり しない。

白い 子羊みたいに 草を 食べたり しないから。

あるがままの 自分で いるよ。」

すると、グージーは 目を 覚ました。

グージーは、自分に 言い聞かせたよ。

ゆめ 夢を 見たわ。教訓の ある 夢ね。

農場主が お望みなのは、この わたし！

高い 木で さえずる 鳴き鳥ではなく、

色あざやかな オウムでも なく、

にんじん好きの ウサギでもない。

大きな 茶色の ヘラジカも、およびじゃ ない。

農場主は、あるがままの ガチョウの わたしを

お望みなんだわ！」

